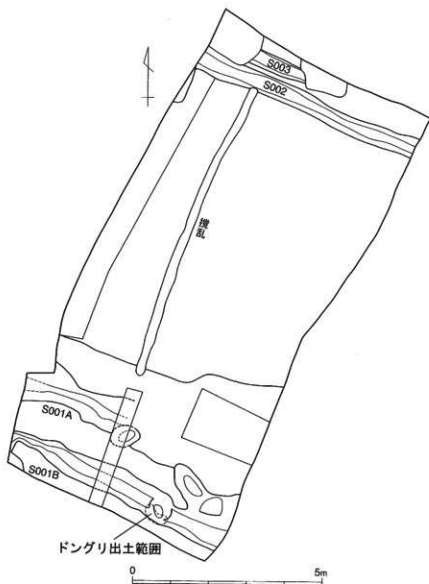


## 第8章 宮ノ前 d 地区

### 第1節 遺跡の概要

宮ノ前 d 地区は南北に延びる市道の東側に平行し、更にその東側に宮ノ前 b 地区が隣接する。調査区も南北に長く、ほぼ南北13m・東西6mで78m<sup>2</sup>の調査面積である。宮ノ前 b 地区が東側に近接し、南側の里道を挟んで宮ノ前 a 地区が位置する関係にある。

調査は宮ノ前 b 地区の調査で地表下50cmまで攪乱されていることが判っていたので、この深さまで重機で掘削した。その後遺構の検出作業をおこなったところ、遺構は調査区の北部と南部に限定され、その間は水田耕作による削平面であることがわかった。南部の遺構うち、南壁から西壁沿いに3.7mと南壁から東沿いに5.1mの部分で斜行するように延びるラインは、位置から考えて宮ノ前 b 地区の流路 2 の北壁に連続するものであるが、宮ノ前 d 地区の調査では流路を確認することはできなかった。



第71図 遺構配置図 (200分の1)

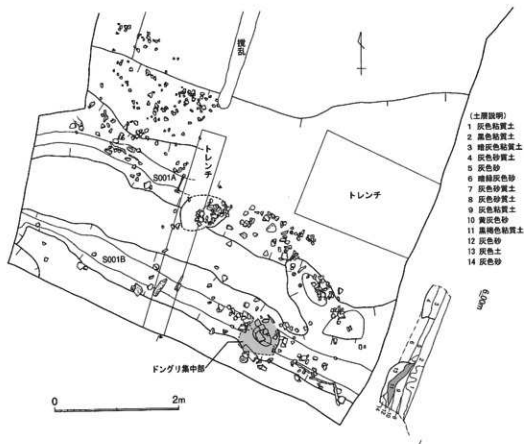
## 第2節 遺構と遺物

S-001A 遺構は流路で、東西両壁に延びる。平面形はほぼ直線的であり、幅は概ね0.3m~0.8m、深さ0.29mである。本流路内には夥しい土器・流木片が含まれていた。長軸0.7m、短軸0.5mの小土坑が2基あり、ドングリの水さらし場と推定する。

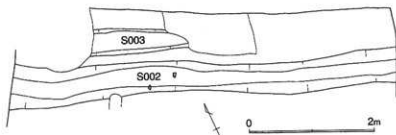
S-001B 遺構は流路で、東半部が不明瞭である。掘り込み層が砂質であり、そのため壁が崩壊しやすく平面形が蛇行している。幅は概ね1.0m~0.6m、深さ0.16mである。本流路内にも夥しい土器・流木片が含まれていた。流路内には径が概ね0.7m~0.8mの規模の小土坑があり、クヌギのドングリが多量に出土しており、ドングリの水さらし場に関連する遺構と推定する。

第74図1から第75図23がS-001出土遺物である。1から7は甕で、1~3は口縁部を外側に小さくつまみ出す。これらの甕は、概ね弥生時代後期前半代のものである。

8から11は複合口縁罫で、9は内傾する鋤先状口縁で、外面に連続山形文を施す。8と11は口縁部を上下方向にやや幅広く拡張し、11は連続「ハ」字状文を施す。10はさらに口縁部が拡張し、波状文を施す。9は後期初



第72図 S-1 (60分の1)



第73図 S-2 (60分の1)

頭、8と11は後期前葉、10は後期後葉である。

12から14は甍底部で、13と14はやや上げ底状を呈する。12が弥生時代後期初頭で、13と14は中葉か。

15は丹塗りの脚台、16と17は脚、18は屈曲部に刻みを有する高坏、19はガラス小玉である。20は角閃石安山岩製の礫石、21は緑色片岩の礫石、22は安山岩製の石錘である。23は板状の材で、方形ないし長方形と思われるほぞ穴がある。

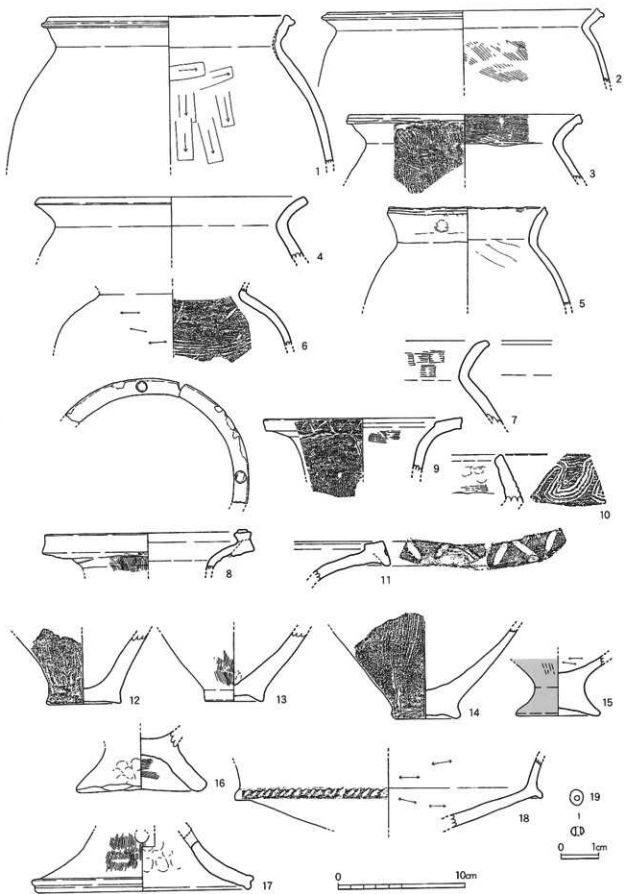
いずれも周辺からの流れ込みみであるが、以上の遺物からS-001は弥生時代後期初頭から後葉にかけて機能したことが考えられる。

**S-002・S-003** 北側の遺構面は宮ノ前 b 地区の北側で確認された遺構面に繋がる事が判明した。内部の土は灰褐色をした脆い土壌で、耕作土と推定される。この耕作面を除去した下底部は茶褐色に変質しており、水田の下部であろう。また内部はS-002とS-003の溝からなるが、水田の暗渠である。内部からの陶磁器片と土のしまりから考えて近・現代の水田遺構とみられる。

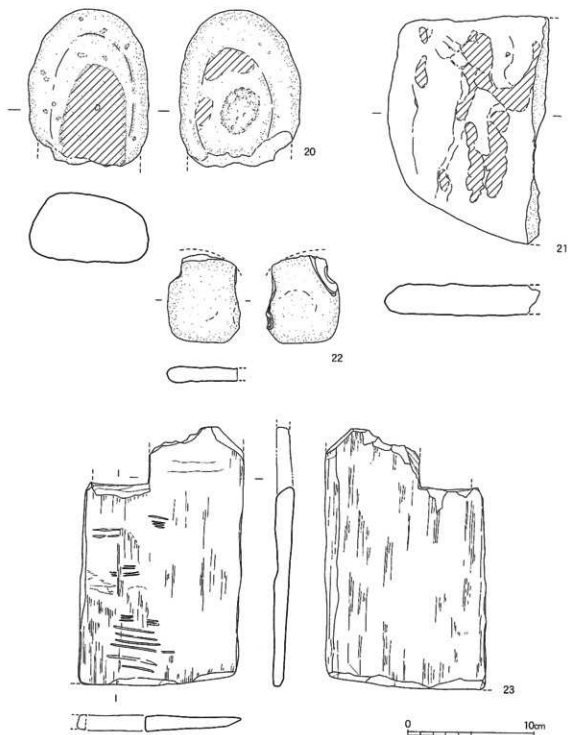
S-002出土遺物は第76図24と25である。いずれもいわゆる京都系土師器で、口縁端部をヨコナデし、体部から底部にかけては指頭圧痕が残る。時期は16世紀後葉である。

### 第3節 小結

この地区は、宮ノ前 b 地区同様に旧河道部分にあたる。遺構は旧河道の流路とそこに穿たれたドングリの水さらしのための小土坑である。時期は、出土遺物から弥生時代後期初頭から後葉にかけてと思われる、小土坑出土のドングリの一つを放射性炭素年代測定（AMS法）したところ（第9章参照）、暦年較正年代で60BC - 20AD（63.9%）という年代が得られたことから、これが後期初頭の年代の一点を示すものと理解できる。



第74図 3次 S-001出土遺物（3分の1、19のみ1分の1）



第75図 3次 S-001出土遺物 (3分の1)



第76図 3次 S-002出土遺物 (3分の1)

## 第9章 自然科学的調査の結果

### 第1節 放射性炭素年代測定 (AMS 測定)

(株) 加速器分析研究所

#### (1) 遺跡の位置

若宮八幡宮遺跡は、大分県大分市上野町、六坊南町 (北緯33° 13' 35"、東経131° 36' 54") に所在する。

#### (2) 測定の意義

弥生時代中期～後期の実年代および遺跡が形成された年代を明らかにしたい。

#### (3) 測定対象試料

測定対象試料は、宮ノ前 c 地区の3区IV層出土の土器外面付着炭化物 (No.1: IAAA-72206)、1～3区IV～VI層出土の土器外面付着炭化物 (No.2: IAAA-72207)、2・4区溝3出土の土器外面付着炭化物 (No.3: IAAA-72208)、北東壁出土の土器付着炭化物 (No.4: IAAA-72209)、集中区2出土の土器外面付着炭化物 (No.5: IAAA-72210)、8トレンチIV層出土の土器付着炭化物 (No.6: IAAA-72211)、北東壁出土の土器外面付着炭化物 (No.7: IAAA-72212)、1区VI層・3区IV層出土の土器付着炭化物 (No.8: IAAA-72213)、宮ノ前 d 地区 s-001 出土のどんぐり (No.9: IAAA-72214)、宮ノ前 c 地区の第2黒色土出土の土器内面付着炭化物 (No.10: IAAA-72215)、宮ノ前 c 地区の土器内面底部付着物 (No.11: IAAA-72216)、溝1出土の土器外面付着炭化物 (No.12: IAAA-72217)、朱塗り木製品の割れ口から採取された木片 (No.13: IAAA-72218)、東横前 b 地区の黒色粘土層出土の土器外面付着炭化物 (No.14: IAAA-72219)、宮ノ前 d 地区のSK7出土の土器内面底部付着物 (No.15: IAAA-72220)、宮ノ前 c 地区の集中3中央ベルトVI層出土の土器外面付着炭化物 (No.16: IAAA-72221)、土器外面付着炭化物 (No.17: IAAA-72222)、黒色土層VI層出土の土器外面付着炭化物 (No.18: IAAA-72223)、SD-1IV層出土の土器外面付着炭化物 (No.19: IAAA-72224)、土器外面付着炭化物 (No.20: IAAA-72225)、合計20点である。

#### (4) 化学処理工程

- 1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- 2) AAA (Acid Alkali Acid) 処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001Nの水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- 3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- 4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO<sub>2</sub>) を精製する。
- 5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着し測定する。

#### (5) 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も

同時に行う。

(6) 算出方法

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- 2) BP年代値は、過去において大気中の<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として遡る<sup>14</sup>C年代である。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出した。  
複数回の測定値について、 $\chi^2$ 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- 4)  $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。  
 $\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰;パーミル)で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_S - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [({}^{13}\text{A}_S - {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}) / {}^{13}\text{A}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、 ${}^{14}\text{A}_S$  : 試料炭素の<sup>14</sup>C濃度 : (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>S</sub>または(<sup>14</sup>C/<sup>13</sup>C)<sub>S</sub>

${}^{14}\text{A}_R$  : 標準現代炭素の<sup>14</sup>C濃度 : (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>R</sub>または(<sup>14</sup>C/<sup>13</sup>C)<sub>R</sub>

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の<sup>13</sup>C濃度 ( ${}^{13}\text{A}_S = {}^{13}\text{C}/{}^{12}\text{C}$ )を測定し、PDB(白亜紀のベレムナイト(矢石)類の化石)の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>Cを測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に[加速器]と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$ (‰)であるとしたときの<sup>14</sup>C濃度 ( ${}^{14}\text{A}_N$ )に換算した上で計算した値である。(1)式の<sup>14</sup>C濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$${}^{14}\text{A}_N = {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として} {}^{14}\text{C}/{}^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= {}^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad ({}^{14}\text{A}_S \text{として} {}^{14}\text{C}/{}^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [({}^{14}\text{A}_N - {}^{14}\text{A}_R) / {}^{14}\text{A}_R] \times 1000 \quad (\%)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $\delta^{13}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。

<sup>14</sup>C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC(percent Modern Carbon)がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\%)$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代(Conventional Radiocarbon Age ; yrBP)が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln \left[ \left( \Delta^{14}\text{C} / 1000 \right) + 1 \right]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

5)  $^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

6) 校正暦年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCal3.10校正プログラム (Bronk Ransey1995 Bronk Ransey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger2001) を使用した。

### (7) 測定結果

$^{14}\text{C}$ 年代は、宮ノ前c地区の3区IV層出土の土器外面付着炭化物 (No.1) が $2030 \pm 30\text{yrBP}$ 、1～3区IV～VI層出土の土器外面付着炭化物 (No.2) が $2030 \pm 30\text{yrBP}$ 、2・4区溝3出土の土器外面付着炭化物 (No.3) が $2090 \pm 30\text{yrBP}$ 、北東壁出土の土器付着炭化物 (No.4) が $1930 \pm 30\text{yrBP}$ 、集中区2出土の土器外面付着炭化物 (No.5) が $2180 \pm 30\text{yrBP}$ 、8トレンチIV層出土の土器付着炭化物 (No.6) が $2110 \pm 30\text{yrBP}$ 、北東壁出土の土器外面付着炭化物 (No.7) が $2000 \pm 30\text{yrBP}$ 、1区VI層・3区IV層出土の土器付着炭化物 (No.8) が $2030 \pm 30\text{yrBP}$ 、宮ノ前d地区s-001出土のどんぐり (No.9) が $2030 \pm 30\text{yrBP}$ 、宮ノ前b地区の第2黒色土出土の土器内面付着炭化物 (No.10) が $2010 \pm 30\text{yrBP}$ 、宮ノ前c地区の土器内面底部付着物 (No.11) が $1170 \pm 30\text{yrBP}$ 、溝1出土の土器外面付着炭化物 (No.12) が $2160 \pm 30\text{yrBP}$ 、朱塗り木製品の割れ口から採取された木片 (No.13) が $2110 \pm 30\text{yrBP}$ 、東横前b地区の黒色粘土層出土の土器外面付着炭化物 (No.14) が $2110 \pm 30\text{yrBP}$ 、宮ノ前b地区のSK7出土の土器内面底部付着物 (No.15) が $1970 \pm 30\text{yrBP}$ 、宮ノ前c地区の集中3中央ベルトVI層出土の土器外面付着炭化物 (No.16) が $1990 \pm 30\text{yrBP}$ 、土器外面付着炭化物 (No.17) が $1970 \pm 30\text{yrBP}$ 、黒色土層VI層出土の土器外面付着炭化物 (No.18) が $1120 \pm 30\text{yrBP}$ 、SD-1IV層出土の土器外面付着炭化物 (No.19) が $2010 \pm 30\text{yrBP}$ 、土器外面付着炭化物 (No.20) が $2040 \pm 30\text{yrBP}$ である。

暦年校正年代 ( $1\sigma = 68.2\%$ ) に基づけば、多くが弥生時代中期から後期前半に相当する。古い方から並べると、No.5が $360 \sim 280\text{BC}$  (45.7%)・ $240 \sim 190\text{BC}$  (22.5%)、No.12が $350 \sim 300\text{BC}$  (32.3%)・ $230 \sim 220\text{BC}$  (1.0%)・ $210 \sim 160\text{BC}$  (34.9%)、No.6・14が $180 \sim 90\text{BC}$ 、No.13が $180 \sim 90\text{BC}$  (64.2%)・ $70 \sim 60\text{BC}$  (4.0%)、No.3が $170 \sim 50\text{BC}$ 、No.20が $100\text{BC} \sim 20\text{AD}$ 、No.8が $90 \sim 70\text{BC}$  (8.8%)・ $60\text{BC} \sim 20\text{AD}$  (59.4%)、No.9が $90 \sim 70\text{BC}$  (4.3%)・ $60\text{BC} \sim 20\text{AD}$  (63.9%)、No.1が $90 \sim 80\text{BC}$  (0.8%)・ $60\text{BC} \sim 20\text{AD}$  (67.4%)、No.2が $55\text{BC} \sim 20\text{AD}$ 、No.7が $45\text{BC} \sim 25\text{AD}$ 、No.10・19が $45\text{BC} \sim 20\text{AD}$ 、No.16が $40 \sim 25\text{BC}$  (6.6%)・ $20 \sim 10\text{BC}$  (9.2%)・ $5\text{BC} \sim 55\text{AD}$  (52.4%)、No.15・17が $0 \sim 65\text{AD}$ 、No.4が $25 \sim 40\text{AD}$  (7.7%)・ $50 \sim 90\text{AD}$  (46.2%)・ $100 \sim 125\text{AD}$  (14.3%)である。

そのほかに、No.11が $780 \sim 790\text{AD}$  (5.6%)・ $800 \sim 900\text{AD}$  (62.6%)、No.18が $890 \sim 905\text{AD}$  (11.2%)・ $910 \sim 975\text{AD}$  (57.0%)であり、時期差はあるが共に平安時代前期を中心とした年代である。

化学処理および測定内容に問題はなく、炭素含有率も十分であることから、妥当な年代と考えられる。

### 参考文献

- Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37 (2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon 43 (2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43 (2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058



第2表 結果一覧表(1)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72206 #2044-1	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：1(第50図57-2)	Libby Age (yrBP) : 2,030 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.60 ± 0.54 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -223.0 ± 2.9 pMC (%) = 77.70 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -227.2 ± 2.8 pMC (%) = 77.28 ± 0.28 Age (yrBP) : 2,070 ± 30
IAAA-72207 #2044-2	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：2(第48図35)	Libby Age (yrBP) : 2,030 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.36 ± 0.82 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -222.9 ± 2.8 pMC (%) = 77.71 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -223.5 ± 2.5 pMC (%) = 77.65 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,030 ± 30
IAAA-72208 #2044-3	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：3(第49図42)	Libby Age (yrBP) : 2,090 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -28.29 ± 0.58 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -229.0 ± 2.9 pMC (%) = 77.10 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -234.2 ± 2.7 pMC (%) = 76.58 ± 0.27 Age (yrBP) : 2,140 ± 30
IAAA-72209 #2044-4	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：4(第44図3)	Libby Age (yrBP) : 1,930 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.10 ± 0.87 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -213.7 ± 2.7 pMC (%) = 78.63 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -217.1 ± 2.3 pMC (%) = 78.29 ± 0.23 Age (yrBP) : 1,970 ± 20
IAAA-72210 #2044-5	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：5(第64図192)	Libby Age (yrBP) : 2,180 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.75 ± 0.89 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -238.0 ± 2.8 pMC (%) = 76.20 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -242.3 ± 2.5 pMC (%) = 75.77 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,230 ± 30

第3表 結果一覧表(2)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72211 #2044-6	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：6(第61図177)	Libby Age (yrBP) : 2.110 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -26.16 ± 0.68 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -231.2 ± 2.7 pMC (%) = 76.88 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -233.0 ± 2.5 pMC (%) = 76.70 ± 0.25 Age (yrBP) : 2.130 ± 30
IAAA-72212 #2044-7	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：7(第60図161)	Libby Age (yrBP) : 2.000 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -26.14 ± 0.60 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -220.7 ± 2.7 pMC (%) = 77.93 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -222.6 ± 2.5 pMC (%) = 77.74 ± 0.25 Age (yrBP) : 2.020 ± 30
IAAA-72213 #2044-8	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：8(第48図39)	Libby Age (yrBP) : 2.030 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -10.04 ± 0.72 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -223.6 ± 3.0 pMC (%) = 77.64 ± 0.30
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -199.6 ± 2.9 pMC (%) = 80.04 ± 0.29 Age (yrBP) : 1.790 ± 30
IAAA-72214 #2044-9代替	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前d地区 試料形態：どんぐり 試料名(番号)：9	Libby Age (yrBP) : 2.030 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -27.65 ± 0.77 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -223.4 ± 2.8 pMC (%) = 77.66 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -227.6 ± 2.5 pMC (%) = 77.24 ± 0.25 Age (yrBP) : 2.070 ± 30
IAAA-72215 #2044-10	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前b地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：10(第34図146)	Libby Age (yrBP) : 2.010 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加速器) = -24.89 ± 0.64 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -221.6 ± 2.7 pMC (%) = 77.84 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -221.4 ± 2.5 pMC (%) = 77.86 ± 0.25 Age (yrBP) : 2.010 ± 30

第4表 結果一覧表(3)

IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72216 #2044-11	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：11(第65図216)	Libby Age (yrBP) : 1,170 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.12 ± 0.41 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -135.9 ± 2.7 pMC (%) = 86.41 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -134.3 ± 2.6 pMC (%) = 86.57 ± 0.26 Age (yrBP) : 1,160 ± 20
IAAA-72217 #2044-12	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：12(第58図131)	Libby Age (yrBP) : 2,160 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.30 ± 0.98 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -235.5 ± 2.9 pMC (%) = 76.45 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -234.4 ± 2.5 pMC (%) = 76.56 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,150 ± 30
IAAA-72218 #2044-13	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態：木片 試料名(番号)：13(第66図221)	Libby Age (yrBP) : 2,110 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -21.77 ± 0.67 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -230.9 ± 2.7 pMC (%) = 76.91 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -225.8 ± 2.5 pMC (%) = 77.42 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,060 ± 30
IAAA-72219 #2044-14	試料採取場所：大分市上野町 若宮八幡宮遺跡 東横前b地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：14(第15図10)	Libby Age (yrBP) : 2,110 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -25.01 ± 0.83 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -231.1 ± 2.8 pMC (%) = 76.89 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -231.1 ± 2.5 pMC (%) = 76.89 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,110 ± 30
IAAA-72220 #2044-15	試料採取場所：大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前b地区 試料形態：炭化物 試料名(番号)：15(第38図199)	Libby Age (yrBP) : 1,970 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.11 ± 0.94 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -217.8 ± 2.8 pMC (%) = 78.22 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) = -216.3 ± 2.4 pMC (%) = 78.37 ± 0.24 Age (yrBP) : 1,960 ± 20

第5表 結果一覧表(4)

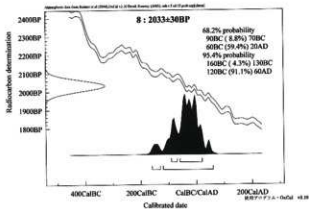
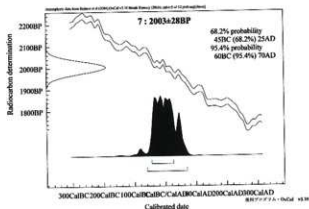
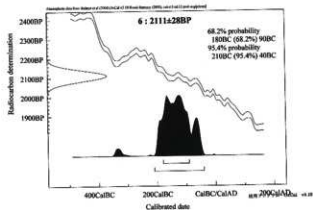
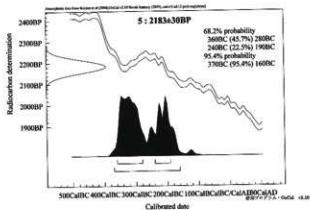
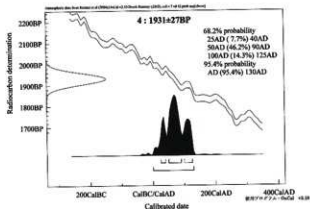
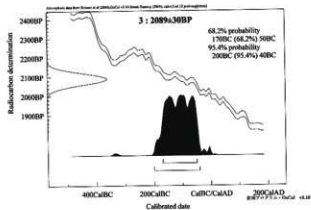
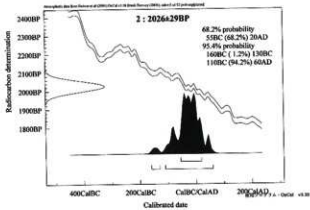
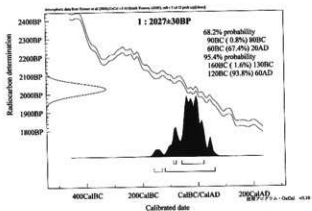
IAA Code No.	試料	BP年代および炭素の同位体比
IAAA-72221 #2044-16	試料採取場所: 大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態: 炭化物 試料名(番号): 16 (第61図165)	Libby Age (yrBP) : 1,990 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -22.60 ± 0.74 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -219.3 ± 2.8 pMC (%) = 78.07 ± 0.28
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -215.5 ± 2.6 pMC (%) = 78.45 ± 0.26 Age (yrBP) : 1,950 ± 30
IAAA-72222 #2044-17	試料採取場所: 大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態: 炭化物 試料名(番号): 17 (第55図106)	Libby Age (yrBP) : 1,970 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -29.26 ± 0.53 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -217.7 ± 2.7 pMC (%) = 78.23 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -224.6 ± 2.6 pMC (%) = 77.54 ± 0.26 Age (yrBP) : 2,040 ± 30
IAAA-72223 #2044-18	試料採取場所: 大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態: 炭化物 試料名(番号): 18 (第56図112)	Libby Age (yrBP) : 1,120 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -24.69 ± 0.52 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -129.8 ± 3.1 pMC (%) = 87.02 ± 0.31
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -129.2 ± 3.0 pMC (%) = 87.08 ± 0.30 Age (yrBP) : 1,110 ± 30
IAAA-72224 #2044-19	試料採取場所: 大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態: 炭化物 試料名(番号): 19 (第48図34)	Libby Age (yrBP) : 2,010 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -27.40 ± 0.55 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -221.7 ± 2.7 pMC (%) = 77.83 ± 0.27
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -225.5 ± 2.5 pMC (%) = 77.45 ± 0.25 Age (yrBP) : 2,050 ± 30
IAAA-72225 #2044-20	試料採取場所: 大分市六坊南町 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前c地区 試料形態: 炭化物 試料名(番号): 20 (第44図4)	Libby Age (yrBP) : 2,040 ± 30 $\delta^{13}\text{C}$ (‰)、(加速器) = -26.16 ± 0.60 $\Delta^{14}\text{C}$ (‰) = -224.0 ± 2.9 pMC (%) = 77.60 ± 0.29
	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{14}\text{C}$ (‰) = -225.8 ± 2.7 pMC (%) = 77.42 ± 0.27 Age (yrBP) : 2,060 ± 30

第6表 参考資料：暦年較正用年代

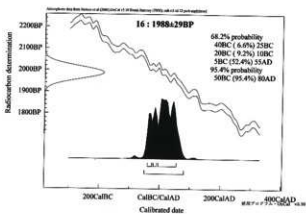
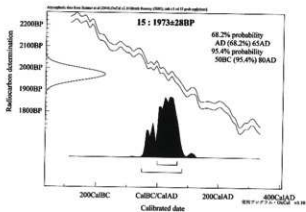
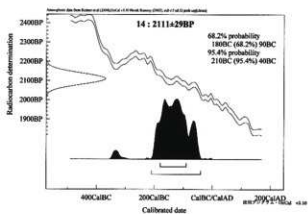
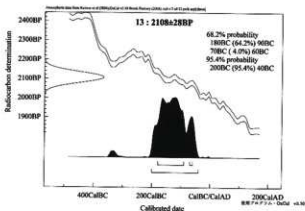
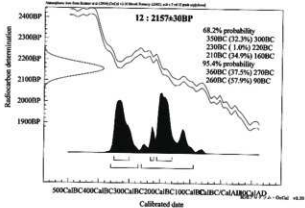
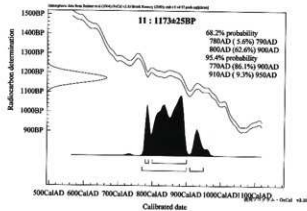
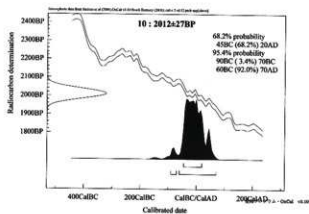
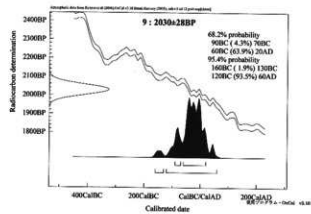
IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)
IAAA-72206	1	2027 ± 30
IAAA-72207	2	2026 ± 29
IAAA-72208	3	2089 ± 30
IAAA-72209	4	1931 ± 27
IAAA-72210	5	2183 ± 30
IAAA-72211	6	2111 ± 28
IAAA-72212	7	2003 ± 28
IAAA-72213	8	2033 ± 30
IAAA-72214	9	2030 ± 28
IAAA-72215	10	2012 ± 27
IAAA-72216	11	1173 ± 25
IAAA-72217	12	2157 ± 30
IAAA-72218	13	2108 ± 28
IAAA-72219	14	2111 ± 29
IAAA-72220	15	1973 ± 28
IAAA-72221	16	1988 ± 29
IAAA-72222	17	1972 ± 28
IAAA-72223	18	1116 ± 28
IAAA-72224	19	2013 ± 27
IAAA-72225	20	2036 ± 30

ここに記載する Libby Age (年代値) と誤差は下1桁を丸めない値である。

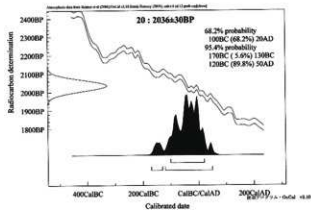
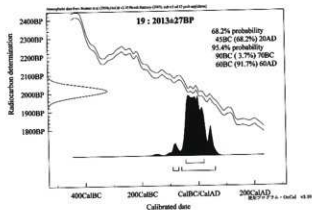
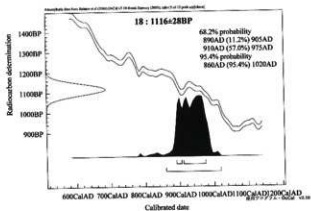
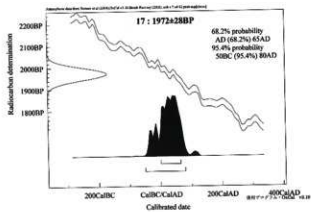
【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】



【参考値：暦年補正 Radiocarbon determination】





## 第10章 総括

当該調査は新規の道路建設事業に伴う緊急発掘調査であり、調査対象区は広義の若宮八幡宮遺跡の一部、それも周辺部に位置づけられるものと考えられる。東横前 a、b 地区や宮ノ前 a～d 地区とも自然流路と考えられる溝状遺構と、若干のピット以外には明瞭な遺構は検出されず、流路や厚く堆積した土層から出土する土器や木器、木材等は遺構に伴う一次資料ではなく、流れ込みや二次的な遺物である。

本報告の対象となった若宮八幡宮遺跡出土土器からみた遺跡の変遷は、宮ノ前 c 地区出土資料から以下のように整理される(第77図)。

I 段階(縄文時代後期)：少量の縄文後期三万田式や、鐘ヶ崎式の深鉢が出土している。本遺跡における最古段階の遺物である。数点と量は少ない。

### II 段階(弥生時代早～中期)

II-1 段階(弥生早期)：一条刻目突帯文土器と黒色精製浅鉢、壺形土器からなる。壺43は本様式を構成する通常の夜白系無文壺ではなく、東日本晩期の系譜を引く壺形土器である。大分市植田市(わさだいち)遺跡から出土した大洞 C2 後半段階の東日本系土器との関連は興味深い。I 段階に比べるとやや増えているが、本段階の土器資料も 10 数点と量的にはわずかである。近隣に極小規模な生活遺構が存在していたのであろう。

II-2 段階(弥生前期)：前期前半～末に比定される壺や壺形土器は増加しており、近隣において、引き続き小規模な弥生人の生活が維持されていたことを窺わせる。

II-3 段階(弥生中期前半)：直線的に外反する下城タイプの壺形土器や「連 L」字状や肥厚口縁を持つ壺形土器に代表される中期前半の土器が存在する。前段階と比べて土器の破片は大きく、かつその量もかなり増えており、この段階で、遺跡すなわち人間活動の拡大的画期があったことを示唆しているように思われる。土器付着の C 1 4 測定による暦年較正年代ではおよそ BC 4 世紀中頃～BC 3 世紀前半となる(131)。

II-4 段階(弥生中期後半)：鋸先口縁を有す壺形土器や高坏と、摘み上げ端部を持つ外傾口縁部の壺形土器で代表される。付着炭素測定では、BC 2 世紀前半～BC 1 世紀前半の年代がでている(10)。

### III 段階(弥生時代中期末～後期)

III-1 段階(中期末・後期前半)：肥厚した口縁上面に円形浮文を巡らせたり、外面に連続八字状ヘラ描文を施した壺形土器や、いったん締まった胴部上半部から、「く」の字状の口縁部に続く壺形土器等を標識とする。当期に属する土器の、C 1 4 測定による暦年較正年代はおよそ AD 1 世紀前後であるが、この時期の較正年代は古く傾向が指摘されており<sup>※註</sup>AD 1 世紀前半を採用する(161)。

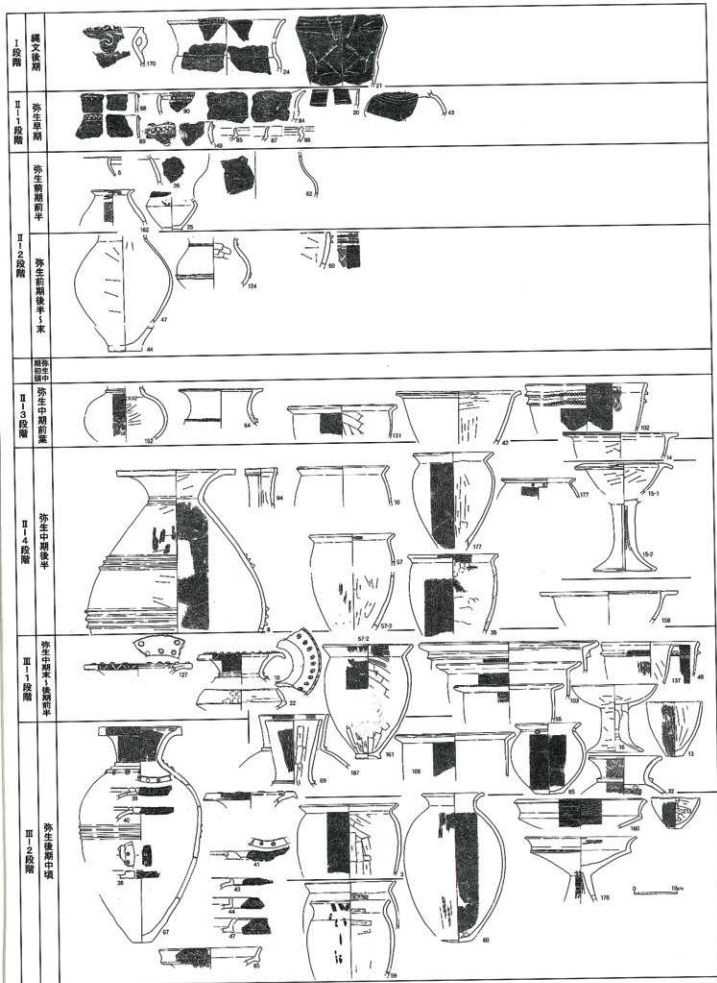
III-2 段階(後期中頃)：肥厚口縁外面に連続縮筒文や数条の飾描波状文も施す壺形土器や「く」の字状口縁壺形土器の段階。AD 2 世紀前半の暦年較正年代を示す資料がある(3)。

以上 I～III 段階と、ほぼ途切れることなく土器の出土が確認されるが、III-2 段階の後期中頃を最後に、遺物の出土は無く、近隣に長期に亘って存在したであろう居住地が消失したことを窺わせる。

調査区域から出土するその後の遺物としては、平安時代前期や、1 4 世紀、1 6 世紀の土師器、近世のキセル等数点にすぎず、二次的な流れ込みの資料である。

自然流路はその最古段階は I もしくは II-1 段階まで遡る可能性があり、その後 II-3、III 段階の弥生中期～後期中頃の期間存続し、周辺に存在していたであろう居住地から投棄されたり流されたりした遺物(土器や木材、木製品等)を堆積していたのであろう。数は少ないが石包丁や祭祀用の木器の存在から、居住地の住民が稲作農耕を営んでいたことは間違いないが、流路に設けた数個のドングリピットは、なお、縄文時代以来の自然の堅果食料に依存する生業を推測させる。

※註 国立歴史民俗博物館藤尾慎一郎氏の御教示による。



第77図 若宮八幡宮遺跡出土土器編年図

第7表 遺物観察表(1) 東横前a地区

## 土器・陶磁器

遺物 番号	出土地点	形質	法量		器種、成形など	産地、文様など	焼成	胎土	釉薬	備考
			口径	器高						
001	Ⅱ-1	樽文土器	径約19.6		埴土上付	内側縁部縁のため不明	良好	胎土少ない	灰色-白灰黄色	
002	Ⅱ-1	樽文土器	径約16.0		埴土上付	内側-底縁ノコナテ、ハナリ目	良好	胎土少ない、灰色-赤褐色の少	淡黄褐色	
003	Ⅱ-1	樽文土器	26.7			口コナテ、内縁をヤミに発特、内縁ノコナテハナリ目	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	手觸り 内縁部縁あり
004	Ⅱ-1	樽文土器				内縁ノコナテ、内縁をヤミに発特、内縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	内縁ノコナテ
011	Ⅱ-2	樽文土器				内縁ノコナテ、ハナリ目、内縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	内縁部縁あり
012	Ⅱ-4	樽文土器	径約13.2		平底の底縁	ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
013	Ⅱ-4	樽文土器	径約14.85		やや上付底縁を要す	内側縁部縁のため不明、内縁-底縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
014	Ⅱ-4	樽文土器	径約16.35		平底の底縁	内縁ノコナテ、内縁から底縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
015	Ⅱ-4	樽文土器	径約16.05		コナリ底縁、発音が良く、	内縁ノコナテ、内縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
016	Ⅱ-4	樽文土器	径約17.0		上付縁の底縁	内側縁部縁のため不明	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
017	Ⅱ-4	樽文土器	径約18.9		平底の底縁	ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
018	Ⅱ-4	樽文土器	径約19.9		高縁のノコナテ	ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
019	Ⅱ-4	樽文土器	径約24.1		平底の底縁	内縁ノコナテ、内縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
020	Ⅱ-4	樽文土器	径約24.0		やや上付底縁を要す	ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
021	Ⅱ-4	樽文土器	径約24.45		やや上付底縁を要す	内縁ノコナテ、外縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
022	Ⅱ-4	樽文土器			発音がよく胎土質よくあり	ノコナテ、外縁部ハナリ目、内縁部ハナリ目、高縁、口縁発特	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
023	Ⅱ-4	樽文土器			上縁1段の上縁	ノコナテ、内縁ノコナテ、外縁部ハナリ目、高縁、口縁発特	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
024	Ⅱ-4	樽文土器			口ノコナテ	ノコナテ、内縁ノコナテ、内縁部ハナリ目、高縁、口縁発特	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
025	Ⅱ-4	樽文土器			高縁に口ノコナテ	ノコナテ、内縁ノコナテ、内縁部ハナリ目、高縁、口縁発特	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
026	Ⅱ-4	樽文土器			高縁に口ノコナテ	ノコナテ、内縁ノコナテ	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
027	Ⅱ-4	樽文土器			高縁に口ノコナテ	内縁部ハナリ目、外縁部ハナリ目	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
028	Ⅱ-4	樽文土器			高縁に口ノコナテ	内縁部ハナリ目、外縁部ハナリ目	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
029	Ⅱ-4	樽文土器			高縁に口ノコナテ	内縁部ハナリ目、外縁部ハナリ目	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
030	Ⅱ-4	樽文土器			高縁に口ノコナテ	内縁部ハナリ目、外縁部ハナリ目	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	
031	Ⅱ-4	樽文土器			高縁に口ノコナテ	内縁部ハナリ目、外縁部ハナリ目	良好	胎土少ない、灰褐色の少	淡黄褐色	

## 石製品

遺物 番号	出土地点	器種	材質	法量		備考
				長さ	幅	
002	Ⅱ-1	磨石ナ		17.3	11.1	
003	Ⅱ-1	磨石ナ		8.4	8.4	
004	Ⅱ-1	磨石ナ		7.2	8.6	
009	Ⅱ-1	磨石ナ		8.1	7.7	
010	Ⅱ-1	磨石ナ		7.6	7.2	
011	Ⅱ-4	磨石土器	石灰	7.2	7.4	

第8表 遺物観察表(2) 東横前b地区

図例 番号	出土地点	層様	遺品		器形、成形など	遺品、大塚など	焼成	胎土	色澤	備考
			口部	底面						
007	黒色粘土	遺土上層								
008	黒色粘土	遺土上層								
009	黒色粘土	遺土上層								
010	黒色粘土	遺土上層								
011	黒色粘土	遺土上層								
012	黒色粘土	遺土上層								
013	黒色粘土	遺土上層								
014	黒色粘土	遺土上層								
015	黒色粘土	遺土上層								
016	黒色粘土	遺土上層								
017	黒色粘土	遺土上層								
018	黒色粘土	遺土上層								
019	黒色粘土	遺土上層								
020	黒色粘土	遺土上層								
021	黒色粘土	遺土上層								
022	黒色粘土	遺土上層								
023	黒色粘土	遺土上層								
024	黒色粘土	遺土上層								
025	黒色粘土	遺土上層								
026	黒色粘土	遺土上層								
027	黒色粘土	遺土上層								
028	黒色粘土	遺土上層								
029	黒色粘土	遺土上層								
030	黒色粘土	遺土上層								
031	黒色粘土	遺土上層								
032	黒色粘土	遺土上層								
033	黒色粘土	遺土上層								
034	黒色粘土	遺土上層								
035	黒色粘土	遺土上層								
036	黒色粘土	遺土上層								
037	黒色粘土	遺土上層								
038	黒色粘土	遺土上層								
039	黒色粘土	遺土上層								
040	黒色粘土	遺土上層								
041	黒色粘土	遺土上層								
042	黒色粘土	遺土上層								
043	黒色粘土	遺土上層								
044	黒色粘土	遺土上層								
045	黒色粘土	遺土上層								
046	黒色粘土	遺土上層								
047	黒色粘土	遺土上層								
048	黒色粘土	遺土上層								
049	黒色粘土	遺土上層								
050	黒色粘土	遺土上層								
051	黒色粘土	遺土上層								
052	黒色粘土	遺土上層								
053	黒色粘土	遺土上層								
054	黒色粘土	遺土上層								
055	黒色粘土	遺土上層								
056	黒色粘土	遺土上層								
057	黒色粘土	遺土上層								
058	黒色粘土	遺土上層								
059	黒色粘土	遺土上層								
060	黒色粘土	遺土上層								
061	黒色粘土	遺土上層								
062	黒色粘土	遺土上層								
063	黒色粘土	遺土上層								
064	黒色粘土	遺土上層								
065	黒色粘土	遺土上層								
066	黒色粘土	遺土上層								
067	黒色粘土	遺土上層								
068	黒色粘土	遺土上層								
069	黒色粘土	遺土上層								
070	黒色粘土	遺土上層								
071	黒色粘土	遺土上層								
072	黒色粘土	遺土上層								
073	黒色粘土	遺土上層								
074	黒色粘土	遺土上層								
075	黒色粘土	遺土上層								
076	黒色粘土	遺土上層								
077	黒色粘土	遺土上層								
078	黒色粘土	遺土上層								
079	黒色粘土	遺土上層								
080	黒色粘土	遺土上層								
081	黒色粘土	遺土上層								
082	黒色粘土	遺土上層								
083	黒色粘土	遺土上層								
084	黒色粘土	遺土上層								
085	黒色粘土	遺土上層								
086	黒色粘土	遺土上層								
087	黒色粘土	遺土上層								
088	黒色粘土	遺土上層								
089	黒色粘土	遺土上層								
090	黒色粘土	遺土上層								
091	黒色粘土	遺土上層								
092	黒色粘土	遺土上層								
093	黒色粘土	遺土上層								
094	黒色粘土	遺土上層								
095	黒色粘土	遺土上層								
096	黒色粘土	遺土上層								
097	黒色粘土	遺土上層								
098	黒色粘土	遺土上層								
099	黒色粘土	遺土上層								
100	黒色粘土	遺土上層								

## 石製品

図例 番号	出土地点	種類	材質	遺品		備考
				長さ	幅	
008	黒色粘土 下層	磨製石斧	粘板岩	3.8	5.3	
007	黒色粘土 下層	磨石	砂岩	2.5	5.2	

第9表 遺物観察表(3)宮ノ前a地区

## 土器・陶磁器

遺物 番号	出土地点	部類	位置		形状、透射など	図案、文様など	調査	粘土	色調	備考
			目録	番号						
001	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	内面十字、外縁ヨコナデ	良好	焼附石、灰石多い	黄褐色	
002	溝ノ上層	壺	35.4		壺ム1上7	内面ノ周縁の小ナ、ヨコナデ、外縁十字、ヨコナデ	良好	焼附石少ない、灰石多い	黄褐色	外縁黒線あり
003	溝ノ上層	壺	38.7		壺ム1上7	内面ヨコナデ、外縁十字、ヨコナデ	良好	焼附石、灰石少ない	黄褐色	
004	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	内面十字形ナドヨコナデ、外縁十字ハナ、ヨコナデ	良好	焼附石多シ、灰石少ない	黄褐色	
005	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	ヨコナデ	良好	焼附石、灰石少ない	黄褐色	下腹式
006	溝ノ上層	壺	115.0		壺ム1上7	内面十字、ヨコナデ、外縁十字ハナ、ヨコナデ	良好	焼附石、灰石少ない	黄褐色	内縁黒線あり
008	溝ノ上層	1000 甕			壺ム1上7	外縁、ヨコナデ	良好		灰褐色	口縁部 中腹線
009	溝ノ上層				壺ム1上7	内面十字、ヨコナデ、外縁十字	良好	内面石、灰石多シ、灰石少ない	黄褐色	内縁黒線あり
010	溝ノ上層	1000 甕	1000 9.10		壺ム1上7	外縁外縁ヨコナデ	良好	焼附石少ない、灰石多シ	黄褐色-赤褐色	
011	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	内面ヨコナデ、外縁ヨコナデ、波状文	良好	焼附石、灰石多シ	黄褐色	
012	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	内面縦いヨコナデ波状ヨコナデ、外縁十字、ヨコナデ波状文	良好	焼附石、灰石多シ	黄褐色	
013	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	ヨコナデ	良好	焼附石、灰石多シ	黄褐色-灰褐色	
014	溝ノ上層	壺	115.0		壺ム1上7	内面十字形ナドヨコナデ、外縁十字ハナ、ヨコナデ	良好	焼附石少ない、灰石多シ	黄褐色	
015	溝ノ上層	壺	119.0		壺ム1上7	内面十字形ナドヨコナデ、外縁十字ハナ、ヨコナデ	良好	焼附石、灰石多シ	灰色-黒灰色	
016	溝ノ上層	下腹壺			壺ム1上7	内縁ヨコナデ、ヨコナデ、外縁十字ハナ、ヨコナデ	良好	焼附石、灰石多シ	黄褐色	下腹式、内縁黒線あり
017	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	ヨコナデ	良好	焼附石、灰石多シ	黄褐色-黄褐色	
018	溝ノ上層	壺	1000 16.20		壺ム1上7	波状外縁ヨコナデ	良好	内面石多シ、灰石多シ	黄褐色	
019	溝ノ上層	壺	1000 16.21		壺ム1上7	波状外縁ヨコナデ	良好	内面石、灰石多シ、灰石少ない	黄褐色	
020	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	ヨコナデ	良好	焼附石多シ、灰石多シ	黄褐色	
021	溝ノ上層	壺	119.0		壺ム1上7	ヨコナデ	良好	焼附石多シ、灰石多シ	黄褐色	
022	溝ノ上層	壺	136.2		壺ム1上7	内面十字、外縁十字後ヘミギキ	良好	焼附石、灰石、灰石多シ	黄褐色	
023	溝ノ上層	壺	1000 16.41		壺ム1上7	波状外縁ヨコナデ、ヨコナデ、内縁はヨコナデ	良好	焼附石少ない、灰石多シ	灰色-黄褐色	内縁黒線ヨコナデ
024	溝ノ上層	壺	127.0		壺ム1上7	内面十字形ナド、口縁部、波状外縁に横文	良好	灰石多シ	黄褐色	
025	溝ノ上層	小壺	1000 14.01		壺ム1上7	波状外縁十字形ナド、内面十字形ナド、波状外縁に横文	良好	灰石多シ	黄褐色	外縁黒線あり
026	溝ノ上層	壺			壺ム1上7	内面ヨコナデ、外縁十字後本の横文	良好	焼附石少ない、灰石多シ	黄褐色	
027	溝ノ上層	壺	1000 14.02		壺ム1上7	波状外縁十字	良好	内面石多シ、灰石多シ	黄褐色	外縁黒線あり
028	溝ノ上層	壺	36.0		壺ム1上7	内面十字形ナド、上縁十字、外縁十字、内面十字	良好	内面石多シ、灰石多シ	黄褐色	外縁黒線あり
029	溝ノ上層	壺	134.2		壺ム1上7	内面十字形ナド、ヨコナデ、外縁黒い十字	良好	焼附石、灰石多シ、灰石少ない	黄褐色	外縁黒線あり
030	溝ノ上層	壺	129.0		壺ム1上7	外縁外縁十字、ヨコナデ	良好	焼附石多シ、灰石多シ	黄褐色-黄褐色	内縁黒線あり

## 石製品

遺物 番号	出土地点	種類	材質	辺長		重量
				長さ	幅	
031	溝	石片	燧石	7.4	4.4	0.06g
032	溝ノ上層	打先石	燧石	26.6	7.0	

















石製品

品名 品目 番号	品上地名	種類	材質	数量		備考
				貯金	貯	
109	品3	石造丁		貯金貯9.3	貯貯貯4.3	
109	01	中使ハロト1型	岩製石造	貯貯貯4.9	2.0	
110	54	品3	石造	貯貯貯	貯貯貯	
101	01	品3	石造	貯貯貯貯貯.0	貯貯貯貯貯.4	

銭貨

品名 品目 番号	品上地名	種類	種類名	数量			備考
				貯	貯	貯貯	
201	04	品3	天銀通貨	1000年	2.4		2.1
202	04	品3	天銀通貨	江戸時代	2.4		2.9
203	04	品3	天銀		2.0		2.5

第12表 遺物観察表(6) 宮ノ前d地区

## 土器

発物 番号	出土地点	器種	用途		形制、成形など	原料、文様など	焼成	胎土	白濁	備考
			口縁	器底						
001	5001B	灰土土器	丸底	丸底	くの字に折れまく口縁部	内面へうたきで、外側ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	白濁色一帯状褐色	片断
502	5001B	灰土土器	丸底	丸底	くの字に折れまく口縁部	内面へうたきナシ、外側ナシ、口縁部は丸底部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
503	5001A	灰土土器	丸底	丸底	くの字に折れまく口縁部	内面へうたき、外側部は丸底部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	白濁褐色一帯状褐色	片断
004	5001A	灰土土器	丸底	丸底	くの字に折れまく口縁部	内面へうたき、外側部は丸底部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	白濁褐色一帯状褐色	片断
005	5001A	灰土土器	丸底	丸底	くの字に折れまく口縁部	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	白濁褐色一帯状褐色	片断
006	5001A	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
007	5001B	灰土土器	丸底	丸底	くの字に折れまく口縁部	内面へうたき、外側部は丸底部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
008	501	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
009	501	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
010	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
011	5001A	中層	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
012	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
013	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
014	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
015	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
016	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
017	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
018	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
019	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
020	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
021	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
022	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断
023	5001B	灰土土器	丸底	丸底	丸底部のみ	ナシ、口縁部はコナデ	良好	黄褐色、灰石や中砂多い	黄褐色	片断

## 石製品・その他

発物 番号	出土地点	器種	材質	用途		備考
				長さ	幅	
018	5001	中層	石	石製	0.30	
020	5001B	灰土土器	石	石製	0.30	
021	5001B	灰土土器	石	石製	0.30	
022	5001B	灰土土器	石	石製	0.30	
023	5001B	灰土土器	石	石製	0.30	

# 写真図版



遺跡空中写真（東から）



遺跡空中写真（西から）



図版 2 (東横前 a 地区)



遺構検出状況 (東から)



SD-1



SD-1





SD-1 遺物出土状況



SD-2



SK-1

図版 4 (東横前 a 地区)



SK-2



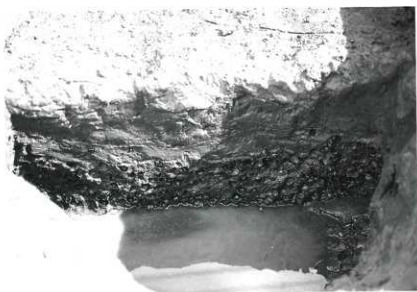
調査区西壁



調査区東壁



完掘状況



ドングリビット堆積状況



ドングリビット完掘状況

図版 6 (宮ノ前 a 地区)



完掘状況



検出状況



SK-1



完掘状況



完掘状況



南壁状況

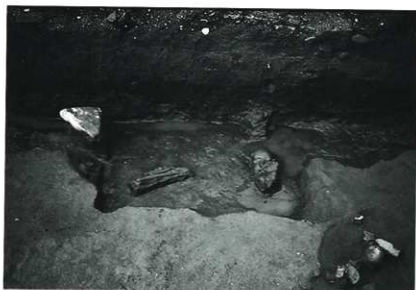
図版 8 (宮ノ前 b 地区)



SK-1



SK-2



SK-3

SK-3



SK-5



SK-4





図版10 (宮ノ前c地区)



作業風景



中央ベルト土層



北壁土層



SD-1 (北西から)



SD-1 (北から)



SD-2



図版12 (宮ノ前c地区)



ドングリビット検出状況



遺物出土状況



遺物出土状況



完掘状況



作業風景



S-001

図版14 (宮ノ前d地区)



S-001 遺物出土状況



S-001 完掘状況



S-001 土層断面



2



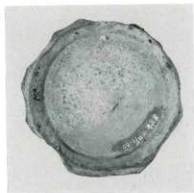
3



10



11



15



16



17



18



20



22



23



24

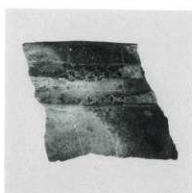
図版16 (東横前b地区)



1



2



3



7



9



23



30



31



36



36



3



7



8



14



15



17



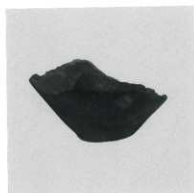
17



21



24



25



30



32

図版18 (宮ノ前 b 地区)



2



2



8



3



3



9



10



13



14



15



17



20





21



30



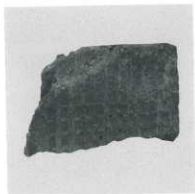
31



31



32



32



33



33



34



34



35 表



35 裏

図版20 (宮ノ前 b 地区)



42



46



48



55



57



68



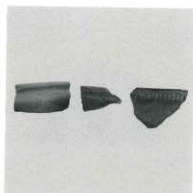
79



80 (浮文)



93



86,85,90



97



97



104



114



124



139



140



154



153



155



152



159



160



160

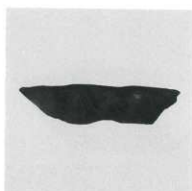
图版22 (宮ノ前 b 地区)



167



169



169



176



177



181



182



183



187



190



192 器台外面



192 器台側面



195 台付鉢



196



197



199 側面



199 内面



213



210 内面



210 外面

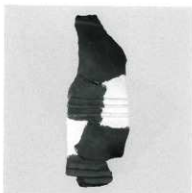


200~209

図版24 (宮ノ前 c 地区)



7



8



8



9



10



12



13



14



15



16



18



21



22



23



24



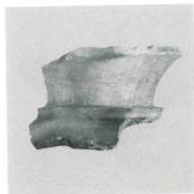
26



28



30



32



33



34



39



43



48

図版26 (宮ノ前c地区)



50



54



60



65



67



69



72



75



76



80



83



84





85



86



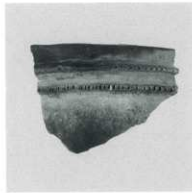
87



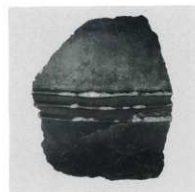
94



95



102



103



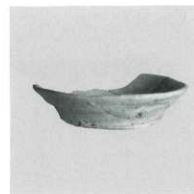
107



112



114



116



120

図版28 (宮ノ前 c 地区)



121



124



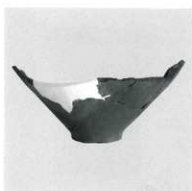
125



126



127



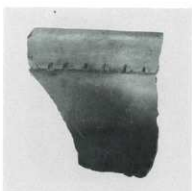
129



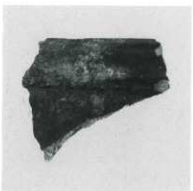
134



136



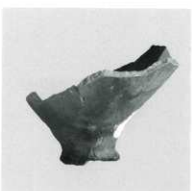
137



138



141



143



154



160



161



164



167



169



170



173



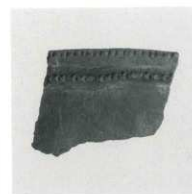
174



176



177



184

図版30 (宮ノ前c地区)



187



188



189



189



200



201



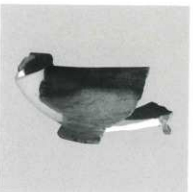
202



203



205



209



211



213



221(A面)



221(B面)

図版32 (宮ノ前 c 地区)



214



215



216



217



218



220



220



221(部分)



221(部分)



221(部分)



221(部分)



222



223(1)



223(2)



225(1)



225(2)



224



230



231



232

図版34 (宮ノ前d地区)



5



8



10



11



14



15



16



17



18



19



24



25



# 報告書抄録

ふりがな	わかみややはちまんぐういせき ひがしよこまえ a、b ちく みやのまえ a～d ちく
書名	若宮八幡宮遺跡 東横前 a、b 地区 宮ノ前 a～d 地区
副書名	庄の原佐野線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	4
シリーズ名	大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第25集
編著者名	高橋徹 小梅和宏 綿貫俊一
編集機関	大分県教育庁埋蔵文化財センター
所在地	〒870-1113 大分市大字中判田1977番地 TEL 097-597-5675
発行年月日	2008年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
わかみややはちまんぐういせき ひがしよこまえ a ちく 若宮八幡宮遺跡 東横前 a 地区	おいたしろうえのまち13 大分市上野町 1 3	44201	322053	33° 13' 36"	131° 36' 52"	031001-031113	1,000	道路建設
わかみややはちまんぐういせき ひがしよこまえ b ちく 若宮八幡宮遺跡 東横前 b 地区	おいたしろうえのまち13 大分市上野町 1 3	44201	322053	33° 13' 36"	131° 36' 52"	041014-041102		道路建設
わかみややはちまんぐういせき みやのまえ a ちく 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 a 地区	おいたしろうほうみなみまち 2 大分市六坊南町 2	44201	322053	33° 13' 34"	131° 36' 55"	31114-040121	200	道路建設
わかみややはちまんぐういせき みやのまえ b ちく 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 b 地区	おいたしろうほうみなみまち 2 大分市六坊南町 2	44201	322053	33° 13' 34"	131° 36' 55"	031114-040121	165	道路建設
わかみややはちまんぐういせき みやのまえ c ちく 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 c 地区	おいたしろうほうみなみまち 2 大分市六坊南町 2	44201	322053	33° 13' 34"	131° 36' 55"	040622-041102		道路建設
わかみややはちまんぐういせき みやのまえ d ちく 若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 d 地区	おいたしろうほうみなみまち 2 大分市六坊南町 2	44201	322053	33° 13' 34"	131° 36' 55"	060726-060816	80	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
若宮八幡宮遺跡 東横前 a 地区	生産	弥生・古代	溝、土坑	弥生土器、土師器	
若宮八幡宮遺跡 東横前 b 地区	旧河道	弥生	土坑 (ドングリピット)	弥生土器	
若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 a 地区	旧河道	縄文・弥生	土坑	縄文土器、弥生土器、木器	
若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 b 地区	旧河道	弥生・古代	土坑 (ドングリピット)	弥生土器、土師器、瓦、石器	
若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 c 地区	旧河道	弥生・古代	土坑	弥生土器、土師器、木器	赤彩木製品
若宮八幡宮遺跡 宮ノ前 d 地区	旧河道	弥生	土坑 (ドングリピット)	弥生土器	

## 要約

大分川の旧河道部の低地に位置する。その内、東横前 a 地区はやや微高地に立地し、人工的な溝（水路）が検出されているが、他の地区では自然の旧河道が検出され、ドングリを水さらした土坑が複数みつつかっている。遺物は、弥生中期後半から後期前半代の土器や古代、中世の土師器等が出土しているが、中心となるのは弥生時代である。祭祀に係わると考えられる赤彩の木製品が出土するなど、直接ではないものの、水辺の祭祀の痕跡を認めることができる。

---

庄の原佐野線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（4）

若宮八幡宮遺跡

東横前 a、b 地区

宮ノ前 a～d 地区

平成20年3月25日

編集・発行 大分県教育庁埋蔵文化財センター  
〒870-1113 大分市大字中判田字ビワノ門1977番地  
TEL 097-597-5675

---